

8 月 17 日と 18 日の二日間にわたり、文部科学省東館 3 階第一講堂で「子ども見学デー」夏休み体験・学習プログラムの一環として日本将棋連盟が開催した子ども将棋教室に私と S の 2 名はインターンシップの一環として参加させていただきました。将棋ブースはそれほど大きくはありませんでしたが多くの親子連れが足を止め、将棋に興味を持ってくれたように思います。運営は自分と S の 2 名で何をしたらいいか考えて頑張ってみるということだったので、ブースの資料の配置はどのように配置したら見やすいかや見学客にどうやったら将棋の魅力を感じてもらえるか考えながら運営に当たりました。

将棋を指したいという子が予想以上に多く対応をするのが大変でしたが、将棋の指し方を知らない子供も多く見学に来てくれ、駒の動かし方や将棋のルールなどを教えたり、実際に将棋を指させてみたりして実際に将棋の世界に触れさせることで将棋を面白いと感じてもらえるように努力しました。一方で、小学校の授業で将棋を習いその腕試しに来たという子も意外に多く、小学校での将棋の普及活動の効果がでているのではないかと感じました。

その中で将棋を子供にさせたいが小さい子供でも道場に通わせられるか不安だという意見もあり、両親以外の大人と会話する機会が得られるというメリットもありますが、確かに預ける側としては不安かもしれないと考えさせられました。自分が小学生の頃通っていた道場も大人がほとんどで会話する相手は専ら年上の人たちばかりだったのを覚えています。子どもの側としては当時の自分を振り返ってみても周りが大人ばかりでもそれほど気にはならなかったように思いますが、預ける側となるとやはり子どもも多く通っていて預けやすい雰囲気的道場が近くにないとなかなか預けづらいのだろうと思います。

今回日本将棋連盟のインターンシップに参加して自分自身も将棋の魅力を再確認したように思います。先を読む面白さや駒ごとの役割を生かして相手を追い詰めていくことの楽しさは将棋ならではの楽しみです。今回のイベントに私が参加したことで将棋を指す子どもが増え、もっと気軽に子どもたちが将棋を指せる環境が整っていくことに少しでも助けになれば幸いです。私自身もこのインターンシップで学んだことをこれから生かしていけるように努力していきたいと思っています。